

---

# 放課後時間

岩崎星空羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

放課後時間

### 【Nコード】

N7752E

### 【作者名】

岩崎星空羅

### 【あらすじ】

伝えたくて、嫌われたくなくて伝えられなかった想いがある

分かっていた。

所詮は幼馴染であり、それ以上でもそれ以下でもないことを。

俺、中川 翔と道瀬

麗心<sup>れいん</sup>は家が隣同士の幼馴染。

小さい頃までは二人仲良くしていた。

だけど、学年が上がっていくにつれて、麗心は俺から次第に距離を置くようになってきた。

そんな事が起こってからだろうか。

俺は麗心と一緒にいたいと思う。

けれどそう思えば思うほど、麗心は俺から離れていく。

いつものことだった。

明日までに出された課題を家でやるのは億劫だから学校でやっていこうと思って

一人で課題を解いていた。

ガラッ

という扉が開く音とともに、麗心が入ってくる。  
教室に俺しかいないことが分かると入ってきたのにまた出て行く  
とする。

「ちょ、待てよ！」

そういうと、片足が既に教室外に出た麗心は足を止める。  
こっちを見ないけれど。

「な、何か用？」

「何で…」

俺のことを避けるんだよ」

勇気を出した。

理由が知りたかった。

きつとそれは、“幼馴染”だからだけじゃないと思うような気がする。

何が気に入らないのかを聞いて、変わりたい。

「そんなの、中川君の被害妄想じゃない？」

それだけ言っで、また出て行こうとする。  
だから思わず手首を掴む。

一瞬肩がビクツと動く。

「やめてよ！離してよ！先生呼ぶよ！？」

「言えよ…理由」

力を入れないように注意を払いながら、そつと言っ。  
さっきまで暴れていた麗心も落ち着く。

「私なんかに構わないでよ」

「はッ！？何言っでんだよ！幼馴染だろ」

「だからッ……」

幼馴染だから……」

わけが…分からない。

何で幼馴染だから避けるんだよ。

「幼馴染だから…何だよ…」

「中川君は…だって…」

昔は…

翔って呼んでいたのに、ランクが下がるような気がする。  
遠い存在みたいに。

「中川君の隣にいるの…辛い…」

その言葉に掴んでいた手が離れる。  
辛い、俺といるのが辛い。

「そっか。じゃあ、ごめんな。引き止めて」

俺自身振り返り、かばんを取って早く帰りたいかった。  
最悪だった。

「ま、待って！違う…っ！誤解しないで！」

いきなり後ろに、麗心がくつつく。というか、抱きしめられる。

「ちょ、お前何やってんだよ」

「ゴメン…違う…。だって、幼馴染って…意識しちゃって…。お願い  
離れていかないで…」

い…しき？

こいつが俺を？

「そっか。サンキュ。じゃ、送ってくよ」

「へ、返事は…っ？」

こついうときに限ってキザってやつになるのかもしれない。

後ろの密着度がどんどん減り、離された時、手を差し伸べる。俯いていた麗心が顔をパツと向けて笑顔で手を握り返す。

「ありがと、翔っ」





## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7752e/>

---

放課後時間

2010年10月28日04時20分発行